



平和のうちに眠ったダビデも、夜が明け、目覚めます。5編は主よ、わたしの言葉に耳を傾け／つぶやきを聞き分けてください。わたしの王、わたしの神よ／助けを求めて叫ぶ声を聞いてください。あなたに向かって祈ります。主よ、朝ごとに、わたしの声を聞いてください。朝ごとに、わたしは御前に訴え出て／あなたを仰ぎ望みます(5:1)。と、朝ごとに祈る詩人の姿です。けれども彼の祈りの言葉は「つぶやき」、「助けを求めて叫ぶ声」だといいます。なんと苦しい日々を送っていることでしょう。

詩人は 主よ、恵みの御業のうちにわたしを導き／まっすぐにあなたの道を歩ませてください(5:9) と、従順に、素直に、信仰を持って歩むことを願い求めています。彼を取り巻き、苦しめる敵は、神に逆らう者、誇り高いもの、悪を行う者、偽りを語る者、流血の罪を犯す者、欺く者たちです。彼らの口は正しいことを語らず、舌は滑らかで／喉は開いた墓、腹は滅びの淵(5:10)と、詩人は彼らを冷静に見ています。悪人は自らの罪を腹の思いに突き動かされている。嘘、偽りを巧妙に、語り続けると言います。詩人はあなたを避けどころとする者は皆、喜び祝い／とこしえに喜び歌います。御名を愛する者はあなたに守られ／あなたによって喜び誇ります。主よ、あなたは従う人を祝福し／御旨のままに、盾となってお守りくださいます(5:12) と、信頼して、喜びながら、一日を歩き始めます。



5編は指揮者、笛に合わせて、と指定されていますが、どんな笛だったのでしょうか。現在もシナゴークで礼拝に用いられる笛は角笛(ショーファ)です。「讚美歌21」ではジュネーブ詩編歌を採用し、115「朝ごとに祈る」となっています。オランダの作曲家スウェーリソク(J.P.Sweelinck, 1562-1621) が、静かな原曲に、装飾的な変奏を加え、美しい作品にしています。

参照 https://www.youtube.com/watch?v=ncX8yaNMLBM&list=RDncX8yaNMLBM&start_radio=1&t=70

6編はダビデの詩ですが、「嘆きの夜の祈り」と題名をつけたいくらい、苦悩の思いを率直に祈る賛歌です。指揮者、伴奏者をとめない、第八調と指定されています。調とは旋法、音階のことですが、今となっては、不明です。

詩人は朝から猛烈果敢に働き、さまざまな戦いをし、願った成果を上げられず、苦しみ、いら立ちもあつたでしょう。主よ、怒ってわたしを責めないでください／憤って懲らしめないでください。主よ、憐れんでください／わたしは嘆き悲しんでいます。主よ、癒してください、わたしの骨は恐れ／わたしの魂は恐れおののいています。主よ、いつまでなのでしょう。主よ、立ち帰り／わたしの魂を助け出してください。あなたの慈しみにふさわしく／わたしを救ってください。(6:1) 詩人は同時に 死の国へ行けば、だれもあなたの名を唱えず／陰府に入れば／だれもあなたに感謝をささげません(6:6) と、自分が死ぬことになれば、神は寂しくなるでしょうと情に訴えるほど、神との愛の関係に生きています。寝床に倒れ伏すように身を横たえて わたしは嘆き疲れました。夜ごと涙は床に溢れ、寝床は漂うほどです。苦悩にわたしの目は衰えて行き／わたしを苦しめる者のゆえに／老いてしまいました(6:7) と愚痴をこぼしています。けれども詩人は確信しています。悪を行う者よ、皆わたしを離れよ。主はわたしの泣く声を聞き／主はわたしの嘆きを聞き／主はわたしの祈りを受け入れてくださる。／敵は皆、恥に落とされて恐れおののき／たちまち退いて、恥に落とされる。

「讚美歌21」には6編の讚美歌がありません。ジュネーブ詩編歌には、打ち沈んだ感じの曲の途中から音階を駆け昇り、駆け降るような軽やかな変奏部分も入る詩編6編の曲があります。

参照 <https://www.youtube.com/watch?v=Ty5PY4WmsEc&list=RDncX8yaNMLBM&index=6>